

音声訳は想像力(思いやり)が必要な仕事

音声訳者にはさまざまな「技術」が求められます。相手が文章をちゃんと聞き取れる明瞭な発声やアナウンス技術、さらに音声をきちんと録音する録音技術、誤読がなく正確に読む為の調査技術、そして、墨字の内容をより正確に音声に変えて伝える「処理技術」などが求められます。この「処理技術」のことを、これまで「センス」と言ったり「配慮」などとも言っています。さらに別の言い方をするとすれば「想像力」ともいえるのではと思います。「想像力」が欠如していると、「より正確な録音図書」は作れないということになります。

ではなぜ「想像力」が必要になるかということですが、
「墨字に含まれている多くの情報を、音声という限られた媒介で伝えるには、そのまま音声に変えただけでは、内容を正確に伝えられないことが多々ある。」ということです。

小説などの類ではそうしたケースはあまりでてこないと思いますが、随筆や入門書、専門書、語学書などでは、想像力をたくましくしないと内容をより正確に伝えられないケースがたくさんできます。墨字からはなれ、耳だけで聞く読者にとって、今の読み方で正しく伝わるか、混乱しないかなど、常時意識して音声化していくことが大切です。音訳しながら、片方で聞く人の立場にたって常にそれを意識しながら読んでいく力、つまりこれが「想像力がもとめられる」というわけです。

たとえば、次のようなルビの付いている文章があります。

「3ヶ月も咲き続けるから百日紅さるすべりとついた。」

字を見ている私たちは、何も言われなくても、「3ヶ月も咲き続けるからサルスベリの漢字が『百日紅』と付いていることが容易に分かります。しかし、この内容を伝えるのに、

「3ヶ月も咲き続けるからサルスベリとついた」と読んだのでは、この文章を音訳したことにはなりません。しかし、うっかりそう読んでしまう人もあります。ここで、「そのまま読んだのでは音声だけで聞いている人には伝わらないから読み方を考えな

くては」となるかならないかが想像力の差ではないかと思えます。

ここでは、内容をちゃんと伝える為には使われている漢字を特定させていく読みをしなくてはならないわけです。

ではどう読むか、

例1 「3ヶ月も咲き続けるからサルスベリとつuit。サルスベリの漢字はヒャク、ジツ、コウ、コウハ、ベニ。

例2 「3ヶ月も咲き続けるから、サルスベリ、漢字はヒャク、ニチ、ベニ、とつuit。

他にもいろいろ読み方がありそうですが、ポイントは、サルスベリの漢字ヒャクジツコウの意味がわかるように読むことです。ちなみに「ヒャクジツコウ」という読みは「漢名」ですが、一般には「サルスベリ」と読んでいます。「ヒャクジツコウ」と読んだだけでは「サルスベリ」のこととは気づかないでしょう。

先月の例文の処理例

ワスプと『華麗なるギャッツビー』

ロスト・ジェネレーション（失われた世代）という呼称で、「何が失われたのか？」を問題にするのは的外れかもしれない。この呼称は、ガートルード・スタインがパリで自家用車を修理に出した修理工場の主人が役立たずの工員を、「近ごろの若いや^{ジェネレーション・ブルドウ}つらはどいつもこいつもだめなやつばっかだ！」とののしった言葉を、スタインが勝手に大袈裟に仕立て直して、ヘミングウェイとその同世代作家に対して使ったものだからだ。

ホテルで断られる典型的場面は、映画『紳士協定』（一九四七）に見られる。これはグレゴリー・ペック扮するワスプの人氣ルポライターが、ユダヤ系に化けて種々の差別を体験し、『私は六か月ユダヤ人だった』というルポに纏める形で反ユダヤ主義に挑戦する話だが、主人公は（リストラクティッド（ユダヤ系の宿泊を拒否する））という噂のある一流ホテルに挑む。出迎えた非常に恰幅のいいマネジャーは、真に晴れやかな表情で「お客さまは“ヘブライ宗教”の方ですか？」などと、当時のPC言葉を使って対応する（PCとはポリティカリー・コレクトの頭文字で、「差別的意図のない」という意味）。主人公が次々と質問して相手を窮地に陥れ、「アザワイズ（どうしても泊まるといったら）？」と迫ると、マネジャーは表情を一変させ、「アザワイズ（どうしてもとおっしゃるなら）」と答えて、いきなりチーンとベルを鳴らし、くるりと背を向けて堂々たる歩調で自室へ引っ込む。すかさずボーイが、さっき運んできた主人公のスーツケースを抱えて玄関へ持って行ってしまふ。主人公の姿は本当に惨めにみえる。

〈紳士協定〉とは、マイノリティがあえて差別される状況に挑んでこないかぎり、ワスプ側はその存在を無視し、マイノリティも相互にあたかも差別が存在しないかのように振る舞うが、挑んでくれば敢然と排除するワスプ側の姿勢を指す。これは公式には「分離すれども平等（セパリト・バット・イーコール）」という、事実上の差別方式と不可分の関係にあった。E・ディグビー・ボルツェルは前掲書『プロテスタント・エスタブリッシュメント』の中で、このユダヤ系に対する〈紳士協定〉をめぐる姿勢が、民主党と共和党のワスプを分ける分岐点の一つだったと書いている。つまり非公式かつ微妙な状況では、共和党ワスプは反ユダヤ主義に対して傍観者の態度をとり、クラブや職場からは断固彼らを追放するが、民主党ワスプはそうはしない。さらにこの紳士協定はホワイト・エスニックにも近年まで拡大されていた例として、ボルツェルはケネディが大統領選挙の前後、メ

ディアにゴルフ場にいる自分を撮られないよう異様なまでに配慮した。

読みのポイント

※ルビの読み 外国語のルビの読み方を工夫しなくてはなりません。単にルビ優先の読み方で良いのか検討しましょう。補足的なルビの場合は本文を読み、ルビをあとで補足的に読む方が自然でしょう。

※カッコの読み 『』、「」、（）、<>、などやたらカッコ記号がでできます。単にカッコを上げたり下げたりして読む読み方ではギクシャクして聞きづらくなります。

しゅつしよしんたい 出処進退

「出ル」と「^お出ル」、「進ム」と「退ク」。反義語の組み合わせからなる熟語。

どこを出入りするかといえば、べつに歓楽街でもなければ刑務所でもない。中国のエリート階層（士大夫）が進む官途をさす。彼らにとって、君主に仕えて国政の運営にあずかることは、それまで身につけてきた知識や学問を役立たせる理想の場であった。

しかし、その理想の場がかならずしも理想の場でないことは、いまさら指摘するまでもないだろう。改革者、行動者として現実にたちむかえばたちむかうほど、大きな壁にぶつかることはよくある。「こんな乱れた世の中を正そうなどと、むきになることはない。いっそ世を捨てよう」と思う一方で、「いや、それでも手を引くことはできない」とつぶやき、進退両難のはざまでも悩むのが人情の常である。

そこで、行動の準則とでもいうべきものが必要になってくる。あるとき、^{こうし}孔子は一番弟子の顔回（^{がんかい}）にむかってこう言った。
――コレヲ用ウレバ行イ、コレヲ^す舍ツレバ^{かく}蔵ル。唯、我ト^{ただ}爾ト^{われ}コレアルカナ。

（登用されれば力を発揮するが、認められぬときはじっと静観している。こういう境地にいられるのは、わたしとおまえぐらいのものだろうな）。出処進退が自由でいさぎよいことを「^{ようしゃこうぞう}用舎行蔵」とか「用行舎蔵」とかいうのは、この話にもとづく。

「舎」は捨に同じ。

孔子は社会改革に積極的にたちむかうことを自己の責務としていたが、その反面、世の中から隠遁する気持ちも強かった。あるときは、「道が行なわれないときは隠れるべきだ」と言い、あるときは「道が行なわれない世の中だからこそ行動すべきだ」と言っていることから、彼がしばしば「仕」（出仕）と「隠」（隠棲）との間で揺れ動いていたことが見てとれる。彼は、行動の準則についてこうも言っている。

――^{あつ}罵ク信ジテ学ヲ好ミ、死ヲ守リテ道ヲ善クス。危邦ニハ入ラズ、乱邦ニハ居ラズ。天下道有レバ見ワレ、道無ケレバ^{かく}隠ル。邦道有ルニ、貧シク且ツ^か賤シキハ、恥ナリ。邦道無キニ、富ミ且ツ^{たつと}貴キハ、恥ナリ。

（学問の大切さを信じて積極的にとりくみ、命がけで道の実現をはかる。危なっかしい国には足を踏み入れず、乱れた国にはとどまらない。道が行なわれている時代には積極的に仕官するが、道が行なわれない時代には退き隠れる。国がきちんと治まっているときに、貧しく賤しい。国が乱れているときに、富貴を手に入れる。これはどちらも恥ずべきことである）。政治家や財界人に、ぜひこのことばをかみしめてもらいたいものだ。

読みのポイント

※「出処」の「処」と「おる」とが同じであることをコメントする。

※「用舎行蔵」「用行舎蔵」の字の説明。「^{ぞう}蔵」と「かくれる」が同じ字であることをわからせる。

時計が後れて列車に遅れる

「遅れる」の「遅」は、「遅刻」と使われるように、「一定の時刻・時期よりも後になる」という意味です。「野球の試合開始が遅れる」といえば、一時にはじまるはずの試合が一時過ぎの開始になったということになります。

これに対し、「後れる」の「後」は「先」に対応し、「他のものよりも後になる」という意味です。「流行に後れる」「人に後れをとる」などがその例です。また、「後れ毛」「気後れ」などの語もあります。

では「時計がおくれていたので、列車におくれてしまった」の文はどうなるでしょうか。「時計がおくれる」は一日に二十四時間進むべき時計がそれよりもおくれるのですから「後れる」、「列車におくれる」は発車時刻におくれるので「遅れる」となります。

正解は「時計が後れていたのに、列車に遅れてしまった」となります。

なお、「ておくれ」については、「手遅れ」「手後れ」のどちらを書いてもかまいません。

最小限を最少限と書くと間違い

「最小限」とは「これ以上ないという限界に達するまで小さいこと」といった意味です。

これを「出費をサイショウゲンに抑える」というように使うとき、「小さい」というよりも「少ない」という意味のほうが強くなっています。こんなとき、つい「最少限」と書いてしまいがちですが、これは誤り。なぜなら、「サイショウゲン」の反対語は「最大限」だからです。「大」と「小」の対比で「少ない」の意味のときでも「最小限」と書くべきです。ちなみに、「縮小」もこれと同じ。反対語が「拡大」なので、「縮少」は誤りです。

一生懸命は間違いなのか

このことばの本来の形は「一所懸命」です。もともと武士の間で使われていたことばで、「一所」とは自分の所領地のことです。つまり、「一所懸命」とは、「一か所の所領を命にかけて頼みにすること」で、それが「命がけで事を行うこと」の意味に転じたのです。ところが、「命がけ」からの連想でいつのまにか「一生懸命」と書く人が多くなり、発音も「いっしょう」と延ばすほうが多くなりました。

国語辞典によっては「一生懸命」を誤りとしているものもありますが、一般にはむしろ「一生懸命」と書く人のほうが多いと思われ、「一所懸命」の転として認めるというのが大勢のようです。ちなみに、新聞では「一生懸命」に統一されています。

『言葉に関する問答集』より 文化庁編

問：「追従」は「ツイジュウ」か「ツイショウ」か

答：「追従」という漢語には「ツイジュウ」「ツイショウ」という二つおりの読み方があるが、どちらに読んでもよいのか、それとも読み方によって意味も違うのかという問題である。

「追」の字音は、呉音・漢音ともに「ツイ」、「従」の字音は、呉音「ジュ」、漢音「ショウ」、慣用音「ジュウ」である。したがって、慣用音によれば「ツイジュウ」、漢音によれば「ツイショウ」と読むことになるわけである。

「追従」は、古く『懐風藻』に次の例が見える。
 ・神仙の跡を訪はまく欲り、追_つ従_{じゆう}す吉野の薄。
 （大伴王。駕に吉野宮に従ふ、応詔）

これは『日本古典文学大系』の読み方によるのであるが、「神仙の跡を尋ねようと思って、天子の御車に従って吉野川のほとりにつどう」という文意であって、「追従」は、「あとについて行く」「人のお供をする」という意味で使われている。

「ツイショウ」については、古典に次のような用例がある。（ルビは『日本古典文学大系』による。以下同じ。）
 ・女はさるべき人の追_つ従_{じゆう}するにつけてこそ、やむごとなくも、なほおはしませ。（宇津保物語一蔵開下）

これは「女はさるべき人がお供をすると尊く見えるものです」という意であって、「追従」は「人のお供をすること」という意味である。また、次のような例もある。

・心のまなる官爵にのぼりぬれば、時に従_つがふ世の人の、下には鼻まじろきをしつ、追_つ従_{じゆう}し、気色とりつ、従_つふ程は、おのづから、人と思_{おぼ}えて（源氏物語一乙女）

これは、「官位に昇ってしまうと、時世の権勢に従う世間の人が、内心では鼻であしらって馬鹿にしながらも、表面ではこびへつらうて御機嫌をとりつつ従う」という意であろう。

・はかなき、花・紅葉につけても、雖_ひ遊_ひの追_つ従_{じゆう}をも、ねんごろにまつはれ歩_あきて、心ざしをみえ聞え給へば（同上）

ここは、「夕霧が難遊_{ゆうぎ}の時に雲井雁_{くもいのかり}の相手をして御機嫌をとること」の意に解される。しかし、右の二例は、単に「あとに付き従う」の意に解することもできなくはない。しかし、次の用例になると、明らかに「こびへつらうこと」の意味で使われている。

・かの鹿を馬と言ひけん人の、ひがめるやうに、追_つ従_{じゆう}するなど（源氏物語一須磨）

・前の師のみぞ、「追_つ従_{じゆう}ぶかきおいぎつねかな。あな愛敬な」と申給ける。（大鏡一

三・師輔）

・人より追_つ従_{じゆう}（t uixo）せらるることを、真_{まこと}と信ずるならば、遂にはその身の損失となり、あまっさへ諸人より嘲けられうことは疑ひない。（天草本伊曾保物語一鳥と狐のこと）

以上の古典の用例を見ると、古くは「ツイショウ」という読み方で、「あとに付き従うこと」の意味にも「こびへつらうこと」の意味にも用いられていたことが知られる。ただし、室町時代末期に刊行された『日葡辞書』や、幕末に刊行された『和英語林集成』に採録された「追従」（ついでし）には、「おべっか」「御機嫌取り」「へつらう」という意味だけしか掲げられていない。

山田美妙の『日本大辞書』（明治25）には、次のように記載されている。

つみしよう（追従）（一）人ヲ追ツテ其後チニ従フコト。（二）オモネルコト。＝詔フコト。＝ツキサウ。

このほか、大正から昭和初期にかけて刊行された『大日本国語辞典』や『大言海』でも、右と同様に「つみしよう（追従）」に二つの意味を並べて掲げている。もっとも『大日本国語辞典』には、別見出しとして「つみじゆう（追従）」も掲げており、

あとにつき従ふこと。あとより供すること。文徴明詩「高齋落日偶追従」という記載がある。

「ツイジュウ」と「ツイショウ」を、それぞれ別見出しとして、しかも意味の上でもはっきり区別しているのは、早く『辞林』（金沢庄三郎、明治44）がある。同書には次のように記されている。

つみじゆう〔追従〕（名）後につきしたがふこと。あとにつきゆくこと。

つみしよう〔追従〕（名）へつらふこと。おもねること。こぶること。

また、『広辞林』（大正14）に次いで『辞苑』（昭和10）『大辞典』（平凡社、昭和11）も、右と同様の取扱いをしており、これがそのまま現代の国語辞典や漢和辞典の記載に引き継がれている。

つまり、現代の国語では「ツイジュウ」と「ツイショウ」とは、全く意味の異なる別語であると考えてよい。

「ツイジュウ」は、「人のあとについて行くこと。人の言動などにそのまま従うこと、前にあるものをまねると。」などの意味を表し、次のように使われる。

・人の言動に追_つ従_{じゆう}するのではなく、自分の意志で行動することが大切だ。

これに対し、「ツイショウ」は、「人の機嫌をとり、こびへつらうこと。おべっかを使うこと。」などの意味を表し、次のように使われる。

・人間は皆薄情です。私が大金持になつた時には、世辞も

つるしやう
追^{つるしやう}従もしますけれど、一旦貧乏になつて御覧なさい。
柔しい顔さへもして見せはしません。(芥川龍之介「杜子春」)

・上役に追従するのが上手なやつと、彼は同僚から冷たい目で見られていた。

また、「お追従」「追従^{ぐち}口」「追従笑い」の形で使われる。

・自分の印象をよくしようと思って、お追従を言うのはやめなさい。

・営業部長が追従口を叩いて引込むと(新田次郎「縦走路」)

・戦争中は、買い手の方が追従笑いを浮べて、物を売って貰っていたのだ。(獅子文六「てんやわんや」)

以上のように、今日では、両者は別語としてはっきり区別して使われている。

同じ漢字二字で書き表される漢語でありながら、その読み方の違いによって別語とされるものとしては、ほかにも次のような例がある。

十分(ジウブン・ジッポン)

工夫(クフウ・コウフ)

造作(ゾウサク・ゾウサ)

心中(シンチュウ・シンジユウ)

声明(セイメイ・ショウミョウ)

強力(キョウリョク・ゴウリキ)

仏語(フツゴ・フツゴ)

Q. 同じことばで終わる複合名詞のアクセントに共通性はありますか

A. 複合名詞は「二つ以上の語が結合してできた名詞」をいいます。

例えば「遊び+相手」の場合、「遊び」を前部要素、「相手」を後部要素と呼びますが、この二つのことばが結合して「遊び相手」という複合名詞になります。

では、複合名詞のアクセントに共通性はあるのでしょうか。複合名詞の主要なものを整理して、表(資料集30ページ以降)にまとめましたのでご覧ください。複合名詞のアクセントの型を表で調べる方法として、次のような表示法を使っています。

(A型)	…○○○●●●	(後部要素の第1拍まで高い型)
(例)	アソビアイテ けんか～、話～	(遊び+相手)
(B型)	…○○○●●	(前部要素の最終拍まで高い型)
(例)	ガクシン 人事～、参議～	(学士+院)
(B*型)	…○○○●●	(前部要素の最終拍の前まで高い型)
(例)	クナイチョー 防衛～、消防～	(宮内+庁)

「～相手」のように、後部が漢字2字以上の名詞はアクセントの例外が少ないのですが、「同窓会」や「声明文」のように後部が漢字1字の語にはアクセントの例外が多くみられます。

なお、この辞典の本文に複合名詞(「○○調査」)、複合した地名(「○○山脈」)の参照見出しを、次のような形で作りました。

例 …チョーサ (…調査→付P. 53)

…サンミヤク (…山脈→付P. 20)

(注1) (B型)のうち、前部最終拍が、つまる音、はねる音、長音、二重母音後部などの場合に(B*型)になる。

(注2) 以上のほか、○○○イインカイ(～委員会)などのように後部要素のアクセントを生かす複合名詞のアクセントがあるが、これには型名を付けていない。

2000年度 音訳（後期）講習会のご案内

盲人情報文化センターでは、音訳（後期）講習会を下記の内容で行います。

この講習会では、発声、アクセント、腹式呼吸など音声訳に必要な基礎を終了している方を対象に、実際に盲人情報文化センターの録音図書を製作するのに必要な勉強を行います。

この「音訳（後期）講習会」を受講されたい方は、申込用紙に必要事項を記入の上、盲人情報文化センター録音製作係までお送り下さい。

尚、定員の関係で試験をさせていただきます。試験日当日、来館出来ない方は係までお申し出ください。

*担当 盲人情報文化センター 録音製作係 清水

実施要項

- 実施時期** 2000年5月26日（金）～2000年12月22日（金）
※毎月第2、第4金曜日 15回予定
10:00～12:00
- 講習内容** 1. 録音の技術
2. 漢字、図、表など音声変換処理
3. 録音の順序など
- 定員** 20名程度
- 申込方法** 申込用紙に記入の上、郵送またはご持参ください。
社会福祉法人日本ライトハウス
盲人情報文化センター録音製作係
〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2
電話 06-6441-0015
- 〆切日** 2000年4月21日（金）（※すでにすぎていますが5月11日まで受け付けます。）
- 試験日** 2000年5月12日（金）
盲人情報文化センター 9階 10時～12時
- 試験内容** ①漢字の読み（前期講習会修了者は免除）
②音声変換処理センステスト
③アナウンステスト
④面接
※筆記用具持参のこと 鉛筆、消しゴム
- 発表** 1週間後までに連絡

利用者から製作依頼を受けている原本

『日本の桜』 小川 和佑著 <自然科学>
『解剖生理学 知識の整理』 伊藤一朗著 <医学>

以上のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。初めてのグループの方は何か5分でも結構ですから録音したものをご持参下さい。録音についてのチェックと共に、必要があれば録音技術のアドバイスをさせていただきます。

音訳ブラッシュアップ講座のご案内

盲人情報文化センターでは5月より「音訳ブラッシュアップ講座」（水曜と金曜の2コース）を実施します。この講座では音声訳の基礎、実際に読みはじめているが読み癖がついてなかなか自分では直せない、といった方を対象にした講座です。

この講座を希望される方は盲人情報文化センター録音製作係までお申し込みください。尚、今回の講座はグループの方も受講できます。（ただし、有料になります）

時 期： 2000年5月より2001年3月まで
毎月第4水曜（水曜コース）と第4金曜（金曜コース）の2コース
いずれも10回（8月は休み）1時～4時

講 師： 橋本 勝利 氏

会 場： 盲人情報文化センター

費 用： 盲人情報文化センターボランティアは無料
グループは5,000円（10回分）

申 込： 盲人情報文化センター 録音製作係

編集後記 昨年度はほとんど『ろくおん通信』の発行ができず、ご迷惑をおかけしました。今年度4月よりは、隔月発行でスタートしたいと思います。グループの会費につきましては昨年度分をそのまま引き継がさせていただきますのでご了承ください。